

公立久米島病院だより

公立久米島病院 / ☎985-5555
受付時間 / 8時30分～11時 13時～16時
1～2月休診日 / 毎週日・月 / 1月1～3日 / 9日(火) / 2月13日(火)



デジタルヘルス研究 スタート

内科 山城 清人



新年明けましておめでとうございませう。いかがお過ごしでしょうか。今年も健康の自己管理を宜しくお願いいたします。自宅での健康管理法で、体重グラフ化日誌というものがありません。毎日同じ時間帯に体重を測り、それを記録してグラフ化するというものです。この方法を行うだけで、多くの人は体重が増えにくくなり、さらには減量まで期待することが出来ます。日本人は通常冬に体重が増え、糖尿病のコントロールの指標であるHbA1cも冬に悪化する傾向があることがすでにわかっています。ぜひグラフ化体重日誌

を継続的に利用して健康管理に努めるようにしましょう。さて、デジタルヘルス研究に私も参加したかったという声が多かた、中性脂肪やコレステロールの薬を飲んでいてるかた、尿酸を下げるお薬を飲んでいてるかた、このような方も研究へ参加できるようにしました。何か飲み薬を飲んでいてる方も悩まずに一度久米島町役場福祉課へきていただき参加申し込みをしてください。

デジタルヘルス研究 参加者募集

研究1 / デジタルヘルス機器を用いる、用いないでデータの推移をみていく介入研究

研究2 / 腸内細菌の分布、偏り、腸内細菌が体内へどのような影響を与えているかを分析する観察研究

どちらの研究かは福祉課で判断します。また、LHRへ加入して頂く必要があります。

■お問合せ先

福祉課 985-7124

学習障害の画期的な 指導法 その②

～RTI法について～

小児科 渡邊 幸



今回は、読字障害と診断される前の段階で指導を開始していく「RTI(Response To Intervention)」という指導方法をご紹介します。これは元々アメリカの教育で取り入れられている考え方で、全ての子供達が授業についていけるように、適時「到達度チェック」を行い、困難さがある子には早期から必要な指導を行う、という方法です。日本では読字障害に対

するRTIが鳥取県で開発され、鳥取では多くの市町村で導入され効果を上げています。また2年前から東京都でも導入され始めています。

指導は小学1年生を対象に、ひらがなの単音・拗音(「ちゃ」など)・短文の3段階で検査を行います。各段階でつまずき等があればアプリを利用した個別の練習を行います。この検査とアプリでの個別練習により、ほとんどの子は改善され検査をクリアしていきますが、それでもつまずきが見られる児童に対しては、2年生以降も個別に読みや語彙(ごい)を増やす指導を行っていきます。

この方法により、読みが苦手な子供が早期から確実に適切な指導を受けることができるようになります。3・4年生になってから読みのつまずきに気づくということが無くなります。(詳しくは東京都教育委員会のHPをご覧ください)

読字障害をはじめとした学習障害は、非常に気付かれにくく、単に本が嫌いな子と思われる

て年数が経過し、小学校高学年頃になって困難さに気付かれることが多々あります。読むことは全ての学習の基礎であるため、気づくのが遅いと学習のし残しを取り返せなくなってしまいます。また、勉強自体が嫌いになってしまっていることも多くあります。より早く困難さに気づいてそれを改善してあげることが、その子の本来持っている能力を最大限発揮するための最も大切なことです。久米島でもぜひこのような指導法を取り入れていきたいですね。

☆ご案内☆

今月より隔週木曜日(主に集団予防接種のない木曜日)の午後に「小児発達外来」を設置します。担当医は小児科渡辺です。完全予約制なのでゆっくりお話を伺うことができます。お子さんの発達や心の悩みなど気になる方は是非ご相談ください。予約が必要ですので詳細は公立病院まで電話でお問い合わせください。